「茨城をたべよう」出店で通販ＰＲ　ＪＡ常陸

【茨城・常陸】ＪＡ常陸は10月上旬の2日間、東京都世田谷区の駒沢オリンピック公園中央広場で茨城県が開いた「茨城をたべよう収穫祭」に出店した。管内の観光資源や特産品、リニューアルしたＥＣサイトを来場者にＰＲした。



来場者にPRをするJA職員（東京都世田谷区で）

同ＪＡは直販課・くらしの相談課の職員、常陸太田市観光物産協会は、いばらきグリーンツーリズムの担当職員が参加した。

県北地区に位置する同ＪＡは管内で体験できる農業・自然体験や、地元農産物、グルメの魅力を積極的に発信した。特に、いばらきグリーンツーリズムと連携した民泊事業や体験プログラムの紹介に力を入れ、首都圏からの来県を呼びかけた。

ＪＡは「ほしいも」「栗プリン」「のむヨーグルト・ジェラート」など、多くの加工品や米など特産品を販売。各直売所などで販売しているが、ＥＣサイトを通じて遠方の消費者も手軽に購入できると紹介した。

ブースを統括したＪＡくらしの相談課の藤田嘉紀課長は「茨城県の県北地区は、自然やグルメなど魅力が多い地域。現地に足を運び、体験などを通じて楽しんでほしい」とアピールした。

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。



「歓迎」の横断幕を掲げ、受け入れ農家と生徒が顔を合わせた入村式（茨城県常陸太田市で）

千葉の中学生 農家民泊体験
いばらきグリーン・ツーリズム

【茨城・常陸】茨城県のいばらきグリーン・ツーリズム（常陸太田市観光物産協会）は、千葉県の浦安市立富岡中学校2年生125人を受け入れる入村式を各地で開いた。生徒は3、4人ずつに分かれて5月下旬の2日間、農家に滞在。農作業や郷土料理作りなど農村生活を体験した。

いばらきグリーン・ツーリズムは、JA常陸と民泊事業サポート契約を結び、農協観光が協力する。県北の自然や農業、食文化を体感することを目的に教育旅行民泊を推進。1家庭当たり3、4人を受け入れる。今回は教育旅行民泊の一環で、常陸太田市の他、2市町を会場とした。

同市町田町の水府総合センターきらめき会場は、受け入れ農家が笑顔で生徒を出迎えた。「歓迎！　浦安市立富岡中学校」と書いた特製の看板を掲げた。

入村式でいばらきグリーン・ツーリズムの菊池真里さんが「ルールをきちんと守り、安全に楽しく、2日間を過ごしてほしい」と呼びかけた。

同校はこれまで、オリエンテーション型の体験学習をしていた。「人と触れ合う体験を重視したい」と今年から、農家民泊型に切り替えた。教員は「民泊は個人の体験になりがちだが、ここは民泊先でグループ体験ができる。生徒全員が同じ水田で田植えを体験できるのが決め手だった」と話す。

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。

2026年08月14日(金)　日本農業新聞　ワイド２北関東

農泊　子牛と触れ合い

【茨城・常陸】茨城県北6市町で体験型教育旅行の民泊（農村生活体験）をする、いばらきグリーンツーリズム（常陸太田市観光物産協会）の受け入れ家庭に、大子町で酪農を営む鈴木和子さん(72)が新たに加わった。初回は7月末に東京都江戸川区立小岩第一中学校を受け入れ、子牛との触れ合いや花の植え付けなど、酪農家ならではの体験を用意した。

茨城県大子町
酪農家 **鈴木和子**さん



民泊受け入れ家庭への加入を決めた鈴木さん（中央）（茨城県大子町で）

INTERNATIONAL YEAR OF THE WOMAN FARMER 2026

受け入れ快諾「楽しい体験を」

いばらきグリーンツーリズムは、常陸太田市、常陸大宮市、大子町、日立市、高萩市、北茨城市の6市町で体験型教育旅行を受け入れるため、常陸太田市観光物産協会内に設立された組織。管内JAのJA常陸は、「民泊サポート事業」で農泊・民泊受け入れ家庭拡大を後押しする。

鈴木さんはホルスタイン種の乳牛を飼養する。大子町役場で受け入れの流れについて説明を受け、快諾。初回の受け入れ予定日は子牛の出荷日と重なった。孫や親戚の子どもたちを長年世話してきた経験から、鈴木さんは「子どもたちも楽しい体験ができる」と笑顔を見せる。

同JA地域貢献部地域福祉コミュニティ課の藤田嘉紀課長は「鈴木さんのように事業を多くの人に知ってもらい、会員の輪を広げていきたい」と話している。

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。